



愛川ふれあいの村6月の風景

平成30年6月 自然のたより

梅雨に入りました。雨天時は屋内で過ごすことが多く、村内で聞こえてくる音は、子どもたちの声ではなく雨粒の落ちる音や風が木の葉を揺らす音。梅雨の風物詩アジサイが水滴をまとしてより一層鮮やかに彩られています。雨だからこそ見えてくるもの、聞こえてくる音があります。



オオルリ



マダラアシナガバエ



オカトラノオ



コゲラの巣作り



竹下を捕らえたメセキレイ



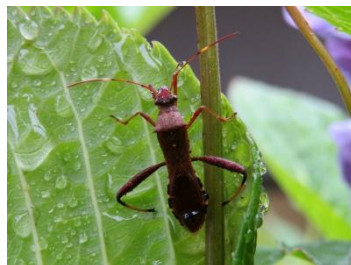
ツバメ、手前ムクドリ



雨粒に写った景色



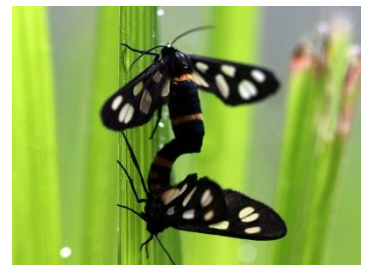
クロスジギンヤンマの産卵



ホソハリカメムシ



スジグロシロチョウ



カノコガ



ノビル



ヤブガラシ



ヒメジョオン



ハッカ

◆鳥たちの子育ての季節◆

春から夏にかけては、鳥たちの子育ての季節です。愛川ふれあいの村では、シジュウカラやキセキレイ、コゲラ、ハシブトガラスなどが子育てをしています。

4月から、勢いのある鳥の鳴き声がところどころで聞こえていました。これは鳥たちの求愛行動だったのです。鳴き声や体の動き、餌のプレゼントなど、さまざまな手段を駆使してパートナーに出会い、また新たな命を育むのです。

たとえばシジュウカラは、8～10個ほど卵を産みオスと交代で卵を温めます。孵化したヒナは親鳥に餌をもらいながら巣の中で過ごします。そして、巣立ちの時期になると、親鳥が餌をちらつかせながら巣の外に導くのだそうです。家族が増えてまた「ツツピーツツピー」と村内がにぎやかになることでしょう。

カラスのような大きな鳥はともかく、小さな鳥たちの巣を見つけることは難しいものです。注意深く観察すると、ヒナに餌を与えるために同じ場所を忙しく飛び回る親鳥の姿を見かけることもあり、「あのあたりに巣があるのだな。」と予想できます。しかし、自然の中にはヒナを捉えようと狙う敵もいるわけですから見えにくい場所に巣を作るのは当然のことです。

常に目にするのでできる植物と違って、飛び回る鳥たちの姿は断片的にしか見ることができません。しかし、鳥たちが命を次の世代につなぐ営みは村のあちこちで確実に積み重ねられているのです。

鳥たちの声を聞いたり、姿を見かけたら、近くに家族がいなか注意深く観察してみてください。

(金山)



▼紫陽花▼

梅雨の植物と言えば、『紫陽花（アジサイ）』を思い浮かべる人が多いと思います。この美しい花を世界中に広めたのがシーボルトです。日本原産であるガクアジサイを持ち帰り品種改良し、ヨーロッパで広まりました。現在、よく目にするセイヨウアジサイは逆輸入されたものです。雨に濡れたアジサイは一段と美しく、じめじめした時期に心を和ませてくれます。

シーボルトが愛したアジサイには他にも種類があります。ヤマアジサイ・ガクアジサイ・タマアジサイなど、花の違いを楽しんでみてください。

(菅原)



★ヒメコウゾ★

コウゾ（ヒメコウゾとカジノキの交雑種）は和紙の原料です。クワの仲間甘い実がなります。他にも村ではクサイチゴやモミジイチゴ、クワなどが食べごろをむかえました。ヒメコウゾは少しえぐみがあります。そのため、あまり食用にはむかないかもしれませんが、日本の紙文化を支える大事な植物です。そんなことを考えながら自然に目を向けると少し賢くなった気がします。

(石川)



◎七月の注目ポイント◎

七月といえば、七夕や夏休みなどイベント盛りだくさん。梅雨を過ぎると真夏が待っています。村の生き物もいきいきと、村外でも太陽に向かって咲くヒマワリやアサガオが夏を感じさせてくれます。

村の中では、あちらこちらで大きくて白い花、『ヤマユリ』が見ごろとなりまます。神奈川県のはととも大きな花をつけ、その様子が豪華で華麗なことから『ユリの王様』とも呼ばれます。

一つの茎に十数輪の花を咲かせ、強く甘い香りを感じさせます。一年に一つずつ花が増えるのも特徴です。発芽してから咲くまでに早くても五年以上かかり、古い株ほど多くの花が咲きます。

根はユリ根と呼ばれており、ユリの中でもアクの少ない種類が食べられています。村のヤマユリは食べるのではなく、花を

楽しんでく

ださいね。

七月頃まで

見ることが

できます。

(渡部)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬

編集：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼



愛川ふれあいの村で、検索★